農村開発・環境保全

ゴムの木ではなく、ココヤシに賭ける

－ レイクセブ町エルアリス地区の苗木変更 －

前号で、あとはゴム苗木の入手とその定植作業が残るだけと報告したエルアリスから、ゴムではなく、ココヤシに変更したいが可能かという問い合わせがPFPから届きました。11月中旬のことです。事業はすでに後半に入っていましたが、優先すべきは、数年後の確かな成果であり、本当に必要な変更であれば検討したいと、PFPに変更理由を確認しました。

ゴムの需要は堅調と聞いていますが、住民は前年度の長期干ばつ時に、ココヤシジュースに救われたのかもしれません。ココヤシは、葉は屋根材に、熟した実は乾燥して油脂材料のコプラに、殻は燃料にと、すべての部位が活用できます。

安定した収入源と期待されるゴムですが、前号で紹介のブラクールのように、干ばつが続くと、収量が減ります。

ココヤシは単価がゴムと同じで、予算変更の必要がないことから、ほどなく助成機関の承認がいただけました。数年後にエルアリスを訪ねた時、苗木変更は正解だったという住民の声を聴くことができればと願っています。

（イオン環境財団助成）

在来種の苗木も 10 ﾍｸﾀｰﾙ分植える予定で、住民は、森で集めた芽生えを、ポリ製鉢で苗木に仕立てるなど準備を進めています。

レムズエルで始まった３年目のタシマンプロジェクト

事業対象のバランガイ・タシマンのシチオ・レムズエル

10 月実施の事業説明会

治安問題で、２年目は隣のティヌオス村の集落に変更しましたが、10月開始の3年目は、「タシマン村の生態系保護事業」のタイトルどおり、タシマン村に戻りました。ただし、申請時のボトゥロブから隣のシチオ・レムズエルへの変更がありました。

タシマン村はレイクセブ町西半分を占める石炭など鉱山開発が盛んなネッド村に隣接していて、レムズエルにも治安維持のため国軍兵士が駐留していると聞きました。昨年11月はPFPの助言で、訪問を取りやめましたが、次回訪問時には、2014年10月から始まった３地区計90ヘクタールにおける定植年度の違い、成長度合いがわかる写真報告ができたらと考えています。コーン畑の中に、それぞれ50㎝～2m程頭を出したゴム苗木が列状に並ぶ風景を紹介したいと思っています。　　（三井物産環境基金3年継続事業）

過去の事業のモニター優先か、新規事業の実施か

現地事業モニター要員不足が深刻な問題となっている中、環境保全事業を次々に実施することの是非を検討する必要があると考えていたところ、PFPを通じて、ツピ町のビラーンの村アクファオン地区で、住民組織が事業資金を探しているという話が入りました。ツピ町の中心地はジェネラルサントスとサウスコタバト州の州都コロナダルを結ぶ国道沿いにあります。事業予定地は国道から20kmほど入った、標高が平均500mの山腹斜面で、80%を占めるビラーン民族の多くは、急斜面のコーン栽培で糊口をしのいでいて、環境保全、収入向上ともにニーズが大きいといえます。

大海の一滴ではあっても、熱帯林を修復し地球温暖化防止に資するのであれば、また急傾斜地の耕地化による土壌浸食防止には、引き続き森林農業事業の実施に意味がありますが、同時に、エルアリスのゴムからココヤシへの転換のように、過去の事業が、実際に持続可能な収入向上、熱帯林修復に役立っているかの検証も重要です。本年は私たちの小さな事業管理能力を新規事業実施か、実績評価に使うか選択する年になりそうです。

昨年11月のモニター取りやめで、現場に足を運べなかった私たちに代わり、PFPからタシマンプロジェクト１年目と２年目事業の現況写真が届きました。

収益で子どもの教育費一部負担が可能になったシエテのバナナ

在来種のラワンの苗からは新しい葉が出て、活着が確認できる２年目のタケヨン

元気に葉を伸ばすタケヨンのコーヒー